

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
07248-3-4653

”うすしおマラソンに

参加して” 関添廣己 副会長

車中の脹れも会場が近くにれて
しだいに口数が少なくてしく
せんとか気持ちを柔らげようになくな
話をしてみる。顔は笑っているが目が笑って
いない。大会に初出場とあっては無理もない。
今日は私も捨ててこの二人の力に任す。
そつ決心する。

滝本氏の安定したハンドルさばきで車は
気持ち良く走る。やがてスタート時刻二
人の顔は青ざめている。完全に零回転に
なまめ居る。二人の顔を公平に見て心
配するな。ペース作りは俺ができる。お頬が
します。返事が笑に可愛い。スタート
一分前、最初は抑えて走りようにはぐく
イス・スタート一キロ地点、文共手に走
りが國れ。肩の力を抜くようにする。
二キロ地点手へばりが見えます。スタートして
一番辛い頃だ。遅れかな着いて来る。
ハイという返事

もつすごい登りを歩いている人、ハーハ呼吸
の乱れに人、孫々、三二目の長い登り、二人の
前を頭のたそれた集団がある。

自分はバクス太股ばかり、あたりがあり
ず大声で一喝する。頭にいたされた人に
負下るな。何の為に練習をしたんだ。
俺に着いて来て。恩にとおりたがれ
集団を一気に抜き去って先達とは、えう
い速いだ、目は意氣くと輝き、声
へはリエクス、顔は紅に染っている。

なんと美しい姿。バクス、本物だ、あれで
いける。もう自分が必要ない、練習の
時と同じ気持ちで走りようには、残
して自分の走りにもどる。

ミキロ地点私がゴールしてからしばらくして
二人がゴール見事に完走、ふとけに入
賞とあればえなに素晴らしい事は
ない。これも一重に当人達の強烈な精
神力と日頃の練習の成果である。これが
機会にいそそうトレーニングに励んです
ばうれい、ランナーになつてほしい。
最後になりましたが、多忙な時間を持
いて、心 takoしていたところよしです。
滝本植田兩氏に心から御礼申上ります。

”定例ランニングに 参加して” つづかず
出席率の悪さ。ゼカラの私が初めて走ら
された距離が、なんなんと十キロ。最後
まで走りきったことに一番驚いてるのは、
なにとかくそつ本人である。走り始めて

頂は充分爽快。心も爽やか。空も青さ
みとれていた。それが、四十分後には、
吐き気ともよぶ、四十五分には、本当に
倒れかかる走りでいた。そして恐怖の音
ながう走りで、自分に気がつく。こんな
分経過地点、思わず口許をおさえな
すまつてあと、めうめう不思議、またまた
しよう。この驚くべきものがまるで生理
現象をもたらすもの、それこそがマラソン
ンである。少くとも私にとってのマラソン
とは、かくのことでるものであった。走っていた
時の記憶といえど、○○さんが××さん
何を考えて走っているのですかと云ふねて
いたことだ。すごい質問。心の中で
私は叫んだのだろう。(なぜかというと声
など出せる状態ではなかったから)しかし
残念なことに、その質問になられた
返事がどういうものだ? いかゞぱり
憶えていない。きっと私は、されば、とにかく
も感激して、いたのだろう。(実のところは
えどくわからぬ)

何を考えて人間は古来から走り続
けてるか。何のために苦しさに耐える
か。自分の一秒に挑戦をしたのか。
今私のには難しそうな問題。しかし
恐らく、私が私のには、大切な問題をよ
り、うかは答えられる時がくるのだろう

さう瞬間を期待しながら、私は今日も走
くつと思つてゐる。

ふきよつ

へ一言)

初めて走る喜びが感じられた。00。(佐野)
相木・忠美の言葉いた。♥ (鶴見)

港本君ありがとう (遠氏)

一生けんめい走らしめる姿は、とても素
敵でした。来年は一緒に走りたいなあ。

(宇多田ゆりこ氏)

ママさんバレーです。『いいえ』マラソンです。
さうひです。『気持ちはよか00。』(石橋)

へ事務局だより

会員の方しがマラソン十三回の結果は既
の通りです。

高ミナリ以下 第二位 藤林さん
第三位 平沢さん

あめでとうございます。

男子五十才~五十九才 第十八位 遠山長
男子四十九~四十九才 第六位 野添烈義
男子三十九才以下 第二十三位 桑野トニー

第二十八位 佐野トニー
第二十九位 石橋

金賞 100円 完走おめでとうございます。
尚 長よりくれぐれし港本氏植田
氏、鶴見小の先生方に、運動ノ援
あり、どうございましたとの事です。
事務局から御礼を致します。

ふねうせ

次回定期例会は三月二十一日(日)
新潟公民館において午前九時より行
なれます。
当日は新潟河村憲次さんが
参加されます。

行